

で、爲ないでも宜い事が遊びなのである」との理屈を悟つたのであろう。しかし實際は、トムは、

忽ちの裡とに金持になつたものだと思ひながら、伯母さんへ報告にと歩み去つた。

## 子供 の 衛 生

——このころ注意すべきこと——

醫學士 石 塚 保 吉

### 正月に關したる子供の衛生

正月は、年の始めで、大人にとつてもおめでたい時であります。殊に子供にとつては、一年中の最うれしい、最楽しい時であります。しかし、此よんこばしい好時節に、やゝもすれば、子供は健康をそこなひやすく、甚だしきは、非常なおめでたい時を、非常な悲しい時としてしまふやうな事があります。

これは、暮れのいそぎと、お正月の取り込みにまぎれて、自然子供に對する注意が怠られるからです。つまり、子供は、いそがしい大人の犠牲に

せられるのです。

少し大きい子供になると、お正月は實におめでたい。學校はやすみなり、御馳走は澤山ありといふので、自然生活が不規則に流れる、御馳走も種類を擇ぶひまがなくなつて、腸胃を害するのは、殆ど常例になつて居ります。

しかし、これではおめでたいお正月に、けちのつくわけであるから、お正月は特に衛生に氣をつけて、食物にしても、分量、種類など、よほど注意して載きたいものです。

正月の遊戯

また正月は、子供の遊戯が盛に行はれます。其

中、獎勵すべきものもあり、すべからざるものもあるやうです。男兒が風をあげ、女兒が羽根をつくといふやうなのは、運動にもなり、體力を養ふ事にもなるから、大に獎勵すべきですが、すこしく、かるたなど、室内に多人數相會するやうなのは、甚だ不衛生なものです。空氣はわるくなる、頭ばかりはたらいで、身體の運動が、これに伴はない、加之、食物が之に附隨してくるから、是等の種類は、全然避けて然るべきです。

### 寒胃に關する注意

寒くなると、皆よく寒胃かぜをひきますが、寒胃の豫防について、往々、世間の人が誤解して、あつ着をすれば、寒胃の豫防は出来るものと考へて居るやうです。

しかし、實は、あつ着は寒胃の豫防になるのではない、却つてあまりあつ着をすると、皮膚を弱くする恐れがあるのです。かつ、どんなに多く衣

服を着て、身體をつゝんでも、氣管の中へ吸入せられる空氣が冷たければ、容易に風邪をひくのです。

故に、子供などは、あまり寒い時には外出をさせないやうに、また、戸の開閉によく氣をつけて、寒氣の侵入を防ぐやうに注意しなければならぬ。是等の事によく注意すれば衣服はむしろ、うすくとも、寒胃をさける事は出来るのです。生後間もなき嬰兒などは、殊に此點に注意を要するのであります。嬰兒は外界に對する抵抗力が極めて薄弱ですから、寒氣にあたると直に寒胃かぜをひく、寒胃から肺炎にすゝむ、其次には死亡といふやうな不幸を見る事が多いのです。故に、戸の開閉にも十分氣をつけて、直接、外氣が嬰兒にあたらぬやうに注意せねばなりません。

また、朝夕寒い時には外につれて出ぬやうにするがよろしい。此時代には、衣服もいくらか多く着せねばならぬ、極寒い時には、ゆたんぼを入れ

る必要もある、衣服をあたゝめて着せる必要もあります。

幼稚園時代になるとあまり温袍させるのは、前にも述べた通りよろしくありません。特に虚弱な者は別として、普通丈夫な子供は、嚴寒でない限り、多少うす着にして、相當に寒氣に抵抗させるやうに、習慣をつけるがよろしい。

#### 寒胃と入浴

これは、常にきく問題であつて、醫者仲間でも説がさまざまです。或は寒胃中入浴するのはよいと奨励する人もあるが私は、寒胃中の入浴は日本に於ては、絶體にわるいと申上ます。西洋の如く。屋内に防寒装置のよくとゝのふて居る處ではよいが、日本のやうに風通しのよい家の中では、入浴は寒胃の原因になる事が多いのです。

或は、湯であたゝまつて、直に寝るのは、寒胃の療法といひますが、これは大人にはよいが、幼児にはよろしくありません、襦袢の取りかへや、

大小便などの爲めに、中途で、寒氣にあたるおそれがあるからです。寒胃中、幼児の入浴は、日中最暖かい時がよいのです。

#### 寒胃に對する家庭の手あて

これは、吸入が最よろしい。鼻加答兒咽喉加答兒は吸入で全治する事が出來ます。吸入に用ふる藥料は、通例重曹水の百倍、または食鹽水の百倍、或は此二ツを等分に混じたものを用ふるがよい。今一つは、首のまはりに濕布をするがよろしい。是等の手あてをしてもなほらぬ時は、是非醫師に見せなければなりません。殊に幼児は、一晚にでも大事に至る事がありますから、特に早く醫者に見せる事が大切です。

#### 冷水摩擦

寒防の豫防として、近頃、冷水摩擦を子供に奨励せられて居るやうであるが、是は甚だ危険です。小學校の子供ならばまだよいが、幼稚園時代の兒童にはあまり過激で決してよろしくありません。

元來冷水摩擦は荒療治であるから幼稚園児には斷

じて行つてならないのであります。

## 幼稚園日記(一)

クリーン、ハーデイ女史著  
田中 生 抄 譯

一九〇六年十一月——エヌ、セーグニア幼稚園  
は三人の子供を收容して開園しました。子供はも  
う一人多く来る筈でしたが其母親が開園の日取を  
間違へたので見えませんでした。私は第一木曜日  
といふべきを次の木曜日と言つて了つたのです。

三人の内二人は初對面を平氣でやつてのける極  
く氣の軽い子でした——おしよべり 惻巧で親しみ易くて饒舌  
で完く遠慮なしでした。

子供等の言葉には随分面白いのがありました。

一番年長の子が今自分達が絲を通してゐる玉は自  
分のものになるのでなくて皆先生のものになつて  
しまふんだといふ事を他の二人に話して居ました。

三人は私の名を呼ぶのを非常にむづかしがりま

した。そして最初の一日は私は「小母さん」で通  
されて了ひました。翌日も「いつもあな貴君の名を忘  
れちまつて」といふ謝言ことわり付きで矢張「小母さん」  
と呼ばれました。

此の幼稚園はボール教會所屬の或る小さい會堂  
内に設けられてあります、教會には金曜日と日曜  
日に祈禱會が行はれて。幼稚園用にする時は祭壇  
の前へ幕を張つて、そして腰掛、椅子、跪拜筵等  
はすべて見えない所へ押込まれて了ふのです。

子供等は此所こゝを私の住居だと思つて居ます。子  
供等は大概一つの室とそれから離れて少し小さい  
室との二間の家か又は一つの室と寢室とを備へた  
家か又は一つの室しかないのでも家と稱してゐる